

**立志、そのために本気で取り組み!**

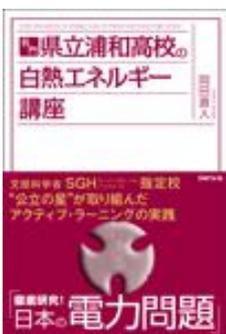
●同級生からのメールで知った母校の新刊!  
 島根県に住む同級生の宮崎英次郎君から「**こんばんは。浦高のエネルギー講座の記事がありました。**」とのメールと4月18日付けの「**電気新聞**」の切り抜きをいただきました。



記事では浦高の先生が授業の様子を本にまとめ、それが反響を呼んでいるとのこと。早速、ネット検索するとエネルギーフォーラム社に…。

\* \*

◆『名門・県立浦和高校の白熱エネルギー講座』



文部科学省 SGH(スーパーグローバルハイスクール)指定校“公立の星”埼玉県立浦和高校が取り組んだアクティブ・ラーニングの実践「徹底研究! 日本の電力問題」講座1年間の記録  
**【目次より】**

- はじめに【学校紹介】埼玉県立浦和高等学校 校長 杉山剛士
- レッスン1【動機編】日本の未来を担うリーダーが電力問題を考える意義  
いざ始動! 「徹底研究! 日本の電力問題」——生徒も教師も文理融合、未来志向でなぜ今、「電力問題」なのか——高校生が電力についてとことん考える
- レッスン2【実践編1】知識を習得し、電力問題を多角的に理解する

- <第1回目>新聞社説読み比べ(2015年5月7日)——メディアは「高浜原発再稼働差し止め」をどう報じたか
- <第2回目>発電の仕組みを理解する(2015年5月22日)——アクティブ・ラーニングによる発電方法の基礎知識習得「原子力」「火力」「再生可能エネルギー」
- <第3回・第4回>世界の電力事情を知る(2015年6月3日・17日)——フランス、ウクライナ、オーストリアの現状と課題を比較
- <第5回>映画『100000年後の安全』を観て(2015年6月17日)——「オンカロ」にみる原子力発電の課題と人類の挑戦
- <第6回>科学リテラシーを身につける1(2015年6月24日)——「科学的思考のレッスン」を読んで学ぶ、二項対立的思考の克服と「市民」となるためのトレーニング
- <第7回>歴史的視点を身につける(2015年7月8日)——被爆国日本はなぜ原発を受け入れたのか?
- <第8回>科学リテラシーを身につける2(2015年7月24日・31日)——夏休みに国立科学博物館を徹底体験!  
 長瀬レポート「国立科学博物館(上野本館)での視察に関する報告」 埼玉県立浦和高等学校 物理科教諭 長瀬義行
- <第9回>中間レポート発表と文化祭発表(2015年9月9日・13日)——十人十色のテーマ  
**レッスン3【実践編2】知識をつなぎ、学び合い、深める**  
 電力問題エキスパートの講義——3名のゲストスピーカーに学ぶ
- <第10回>日本の再生可能エネルギーの導入状況と今後の展望(2015年11月18日)講師:坂西欣也氏(国立研究開発法人産業技術総合研究所・福島再生可能エネルギー研究所 所長代理)
- <第11回>2030年エネルギーミックスにおける「原子力発電」のあり方(2015年11月25日)講師:木村浩氏(特定非営利活動法人パブリック・アウトリーチ研究統括)
- <第12回>2030年における電源構成(2015年12月2日)講師:橘川武郎氏(東京理科大学大学院イノベーション研究科教授)
- <第13回>発電所を实际見なければ始まらない!(2015年12月23日・26日)——電源開発・磯子火力発電所で知る最先端石炭火力のすごさ 埼玉県立浦和高等学校 実習助手 加藤大士
- レッスン4【まとめ編】世界へ発信し、未来を創造する**
- <第14回>東京大学で研究成果をプレゼン、しかも英語で!?(2016年2月13日)——浦高生の提言を世界へ発信、SGH 総合報告会

論文集完成——1年間「電力問題」にどっぷり浸かって学んだことは

高速増殖炉もんじゅを廃炉すべきか 県立浦和高等学校 高波大輔

電力供給は誰が担うべきか 県立浦和高等学校 足立 佑太

おわりに

参考文献

\* \*

以下、「はじめに」学校紹介より抜粋

埼玉県立浦和高等学校は、1895(明治28)年創立の公立男子高校であり、120年以上の歴史を武蔵野の地に刻んできました。校歌に「広き宇内に雄飛せん」とあるとおり、これまで各界で活躍する3万人超の卒業生を送り出しています。

1世紀を超えて時代の荒波をくぐり抜けてきた「浦高」は、教育の王道を歩みながらも、常に進化し続けてきた学校です。「尚文昌武(文を尚び、武を昌んにす)」の理念を脈々と受け継ぎながら、浦高は、知・徳・体のバランスのとれた、社会に有為な人材を育てることを愚直に追求してきました。

質の高い授業を中心とした学力の伸長はもちろん、多彩な部活動や学校行事に没頭するなかで、心と身体を鍛え、世界を支える真のリーダーとしての資質を磨くことのできる学校です。

近年においては、単位制カリキュラムの導入、イギリスの名門パブリックスクール(ホイットギフト校)との姉妹校提携による長期・短期交換留学制度、3年間を見据えた戦略的進路指導、そして文部科学省による「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」指定など、先進的な取り組みにも果敢に挑戦しています。これらを通して、単に外国語に堪能であったり、海外ビジネスで成功したりという枠を超えた、心身のタフさと優しさを兼ね備えた真のグローバルリーダーの育成に邁進しています。

本書で取り上げる講座「徹底研究! 日本の電力問題」も、そんな浦高がめざすリーダー教育の一端を示すものです。今の日本にとって、あるいは世界にとって、何が問題なのか——。

こうした「問い」そのものを探究する活動を、浦高は、「総合的な学習の時間」の中で展開しています。本書を通じて、生徒と教師がともに知的探究を楽しむ姿、そして、浦高生が本気で世界を支えようとしている頼もしい姿を、垣間見ていただければ幸いです。

2017年1月吉日

埼玉県立浦和高等学校 校長 杉山剛士

\* \*

さらに検索すると、朝日新聞の地域版でも3月24日に紹介されていました。

\* \*

## ◆浦高の生徒と教員、「白熱エネルギー講座」を本に 【朝日新聞・埼玉版 2017年3月24日】



エネルギー問題に取り組んだ記録をまとめた岡田直人さん

県立浦和高校(杉山剛士校長)の教員と生徒が「日本の電力問題」をテーマに1年かけて取り組んだ研究の成果を、一冊の本にまとめた。東京電力福島第一原発事故などで揺らぐエネルギーのあり方について、文系・理系の枠を超えて歴史、政治、環境など多角的な視点から考え抜いた思考の足あとだ。▼本のタイトルは「名門・県立浦和高校

の白熱エネルギー講座」。著者で、当時浦高の英語教諭だった岡田直人さん(40)＝現在は県立総合教育センター勤務＝が呼びかけ、物理の教諭ら3人でチームを組み、2年生10人の講座をスタート。2015年度の総合的な学習の時間で、計14回にわたり講義や討論を行った。▼進学校として知られる浦高。岡田さんは原発事故を機に、「日本の電力供給を将来的にどうするのか」という明確な答えのない問いに、**生徒たちととことん向き合っ**て議論したい」と考えた。学問の領域を超え、生徒が能動的に参加する形で学ぶ「アクティブラーニング」の格好の題材と位置づけた。▼初回は原発事故をめぐる全国紙の報道の違いについて読み比べ、意見を交換。その後、発電の基礎知識や世界の電力事情について情報を集めたほか、磯子火力発電所(神奈川県)の見学やエネルギーの専門家による講義も実施。**最後は生徒が「再生可能エネルギー開発に向けた明確な国家ビジョンを持つ」「再生可能エネルギーの技術開発力を持つ有望な企業への投資を促進する」などの提言をまとめ、発表した。**▼岡田さんは「議論は毎回白熱し、考え方や情報については教員が教えられることも多かった」と話した。本は1600円(税抜き)。問い合わせは、エネルギーフォーラム(03・5565・3500)。(角拓哉)

\* \*

こうした授業の背景に浦高の教育理念が強く反映しています。それを杉山校長は入学式の式辞の中で、「人生で一度きりの高校時代に何をすればよいか、これから二つお話をいたします。一つ目は、**立志、つまり『自分の志を立てよ』**ということであり、この浦高の三年間で、将来自分は何を学ぶのか、どのような職業につくのか、また、どのように生きていくのかを徹底的に考えて、進路先を決めることあります。それでは、『自分の志を立てる』ために、**どうすればよいか。それが二つ目のお話です。それは、世界のどこかを支える人間になるために『浦高の教育を100%信頼し、本気で取り組み』**ということであり、(要点のみ)とおっしゃっています。